

別記様式3

特定プログラム説明書

開設学部等名〔医学部〕

プログラムの名称	(和文)	臨床情報医工学特定プログラム
	(英文)	Clinical Informatics and Technology
<p>1. 概要</p> <p>臨床医学・医療分野の発展とその社会貢献には旧来の医療系研究の手法だけでは不十分であり、飛躍的進歩を遂げている情報学・工学分野との連携が必須である。本プログラムでは広島大学、広島市立大学、広島工業大学、広島国際大学の4大学連携により、学士課程、大学院課程における医療系・情報系・工学系の異分野が融合した教育・研究の展開から、臨床情報医工学の確立を目指す。豊富な臨床実習とインターンシップによる能動的学修環境を提供し、臨床現場での実践力を備えた人材育成を行う。地域で構成されたステークホルダー（自治体、企業、NPO法人、医療施設）と緊密に協働し、医療と情報技術を統合できるバイオインフォーマティスト、安全・安心と豊かな医療情報を提供できる人材、臨床情報医工学の知識と実践力保証された高度専門医療人を育成する。これらの人材は、先進医療をチームで担う高度チーム医療人として、地域における医療の発展と社会貢献に持続的に寄与すると同時に、ステークホルダーの拡充と発展に貢献する。</p>		
<p>2. 到達目標</p> <p>臨床情報医工学を横断する知識を基盤として、現場体験を通して学生自ら課題を発見し、異分野学生と一つのチームとなり、適切な解決策を導き出せる能力を修得することを本プログラムの到達目標とする。</p>		
<p>3. 登録時期</p> <p>本プログラムは1セメスターを開始時期とし、履修開始後の登録（事後登録）も可能とする。</p>		
<p>4. 登録要件</p> <p>特になし</p> <p>学士課程教育・大学院課程教育連結型のプログラムであるので、大学院への進学を希望する学生の受講を歓迎する。授業は、実習・演習を除いて、遠隔地双方向講義システム及びe-learningシステムを活用して行う。双方向システムによる授業は霞キャンパスで受講する。</p>		
<p>5. 受入上限数</p> <p>10名を受入上限数とする。</p>		
<p>6. 授業科目</p> <p>※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。</p> <p>※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。</p>		
<p>7. 修了要件</p> <p>「6. 授業科目及び授業内容」に示す科目のうち、少なくとも、医・歯・薬学部及びその他の学部は8単位を取得すること。</p>		
<p>8. 責任体制</p> <p>責任者 : 広島大学医学部 永田 靖 教授</p> <p>担当者 : 広島大学医学部教員</p> <p>担当者 : 広島大学歯学部教員</p> <p>担当者 : 広島大学薬学部教員</p>		

担当者 : 広島市立大学情報科学部教員
担当者 : 広島工業大学生命学部生体医工学科教員
担当者 : 広島国際大学保健医療学部教員

9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

(2) 広島大学における既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の認定単位数等

既修得単位等の認定は行わない。

【特定プログラム履修に関する注意事項】

○主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した特定プログラムの授業科目履修が制限されることがある。

○特定プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

平成29年度臨床情報医工学特定プログラム履修表

科目区分	系	授業科目	単位数	履修期	履修区分		要修得単位数		備考				
					医・歯・薬学部	その他の学部	医・歯・薬学部	その他の学部	授業の方法	授業時間			
専門教育科目	医療系	医療系実習	2	5セメ	—	必修 (注1)	—	2	実習	60			
		医歯薬保健学	2	3セメ	選択必修	必修	8 (注2)	2	講義	30			
	医情報系	医用情報科学概論	2	3セメ		—		—	講義	30			
		医用プログラミング	2	4セメ		—		—	演習	30			
	医工学系	医用工学と医療機器	2	2セメ		選択必修		4 (注3)	講義	30			
		生体医工学演習	2	3セメ					演習	30			
	医療理工学系	保健医療学概論	2	2セメ		選択必修		4 (注3)	講義	30			
		医療理工学演習	2	3セメ					演習	30			
	計							8	8				

(注1) 「医歯薬保健学」の単位を取得済みでないと受講できない。

(注2) 医情報系と医工学系から、それぞれ1科目2単位以上修得すること。

演習・実習科目を含めて履修することが望ましい。

(注3) 医工学系と医療理工学系から、それぞれ1科目2単位以上修得すること。